

## ヨハネの福音書 第6章 35節

「イエスは言われた。『わたしがいのちのパンです。わたしに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者はどんなときにも、決して渴くことはありません。』」

かつてイスラエルの民は、奴隷とされたエジプトから解放され、荒野を放浪したとき飢えの恐れを抱えながら約束の地へと旅をした。旅の途上、飢えの危機にあったとき神に嘆き叫んだ。神は叫びに応え、マナを降り注ぎ民の必要を満たし続けた。彼らは日毎の糧を日々与えられ、集めながらの旅であった。その日が満たされ、また翌日集め食し満たされるパンであった。

荒野でのパン物語を知っている者たちが、いまイエスが語るパンに耳を傾ける。荒野のパンとは異なるパンが明らかになる。このパンに与る者は、決して飢えることがない。日毎に集めることはない。さらに、決して渴くこともないと言われる。

エジプトから逃れ荒野を旅した時は飢えと同時に、渴きも経験した。その両方が保証されるというのである。それも、もはや決して飢えることなく、渴くことがない。それは、わたし、イエスがいのちのパンであり、わたしにより生ける水の川が流れ出るようになるからである。わたしを信じる者はどんなときにも、飢えないパン、渴かない魂を得る。

2023年2月8日